



**学校司書の配置で、
子どもの読書活動を
もっと豊かに**

学校図書館法が改正され、
専ら学校図書館の職務に従事する職員を
学校司書と位置付け、
学校に置くように努めることとなりました。



北海道「朝読・家読運動」イメージキャラクター



事例1
石狩市立双葉小学校
図書館を心地よい読書空間に

事例2
小樽市立銭函小学校
幅広いニーズに応える図書館へ

事例3
当麻町立当麻中学校
読書の扉をひらく図書館に

事例4
札幌市立中央中学校
知的好奇心を刺激する図書館へ

事例5
恵庭市
学校の読書活動の中心として



事例1

石狩市立双葉小学校（学校司書・金澤裕佳さん）

図書館を心地よい読書空間に

子どもの読書活動の充実に向けて

石狩市の状況

石狩市では、平成二十一年度から双葉小学校の前身の旧若葉小学校へ学校司書が配置され、現在、市内の小学校7校に配置されています（うち1校は派遣、うち1校は地域開放型）。

双葉小学校の様子

双葉小学校の学校司書は、金澤裕佳さんです。金澤さんは、以前は石狩市民図書館で勤務されており、双葉小での勤務は2年目です。

学校司書として、朝の読書での読み聞かせなど、これまで経験も生かしながら業務を進めており、双葉小の学校図書館は、朝、中休み、昼休みを中心に、多



読書意欲を高める新刊図書を紹介コーナー

くの子どもたちの姿が見られます。

心地よい読書空間に

新刊図書の紹介コーナーには、子どもたちに人気のダイオウイカに関する本など多くの図書が並べられています。

「最近では、貸出冊数だけ



十進分類法についての解説した掲示

ではなく、子ども一人ひとりの自主的な読書活動を一層活発にするため、図書館をいかに心地よい読書空間にしていくかということをお大切にしています」と金澤さん。

他の学校に配置されている学校司書の取組も参考に、子どもたちが読書に没頭できる読書環境づくりを進めています。

家庭での読書習慣へ

社会の大きな変化の中で子どもの読書量は以前よりも少なくなっていると言われてます。

樟山校長は、「学校司書の配置で学校の読書環境は着実に改善されています。この学校での読書経験を家庭での読書習慣の定着へとつなげたい」と話していました。学校での読書を家庭で、家庭での読書を学校で、双方向で子どもの読書活動を充実させる取組が進められています。

石狩市立双葉小学校

校長 樟山 行彦
児童数 321名
学級数 14学級（特支3）
所在地 石狩市花川北4条3丁目1
Tel 0133-(74)0494
Fax 0133-(74)4576

事例2

小樽市立銭函小学校（学校司書・加藤久美子さん）

幅広いニーズに応える図書館へ

～学習・情報センターとしての機能の充実～

小樽市の状況

小樽市では、平成二十五年
度から小・中学校それぞれ一
校に学校司書が配置されま
した（いずれも非常勤）。

銭函小の様子

銭函小学校の学校司書
は、加藤久美子さんです。
司書資格をもち、書店での
勤務経験もある加藤さん
は、着任2年目です。

「本を魅力的に見せると
いう点は、学校図書館も書
店も共通しています」と
加藤さん。

館内には立体的な展示で
様々な本が紹介されるなど、
日本海を望む大きな窓から
入る日差しと相まって、と
ても明るく、子どもたちの
知的好奇心をくすぐるよう
な空間が広がっています。

幅広いニーズに応える

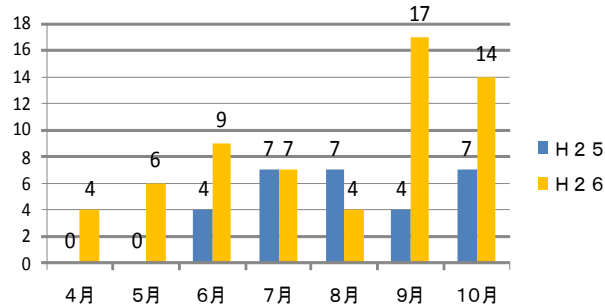
加藤さんは、学年ごとの
本の紹介コーナーや、配
備されている新聞二紙の切
抜きファイルコーナーを設
けるなど、学校図書館の読
書センターの機能だけだ
なく、学習・情報センターの
機能も意識した環境づく
りに取り組んでいます。

「文学作品だけでなく、



新聞の子ども向け記事のスクラップ

図1 授業での学校図書館の利用(回)



学校図書館メディア基準
(注)を参考に、百科事典
や年鑑など、学校図書館と
しての蔵書のバランスをとっ
ていきたいです」と加藤さん。
また、今年度からバーコ
ードによる図書管理が始ま
り、貸出業務が以前よりも
早くできるようになったこ
とで、子どもへのアドバイ
スなどに時間を多くかけら
れるようになったそうです。

授業での活用も進む

配置2年目に入り、子
どもたちの利用だけでなく、
先生からの選書依頼も大幅
に増えているとのこと。

また、授業での学校図書
館の活用も積極的に行われ
ており、利用回数は大幅に
増加しています(図1)。

図書館にいつも専門的な
知識をもつ人がいるという
ことが、学校図書館の幅広
い活用につながっています。

注 (公財) 全国学校図書館協議会が定
めた学校図書館におけるジャンル別
の配分比率等のこと

小樽市立銭函小学校

校長 澤本 昌宏
児童数 305名
学級数 14学級(特支3)
所在地 小樽市見晴町5-2
Tel 0134-(62)2004
Fax 0134-(62)2022

事例3

当麻町立当麻中学校（学校司書・小玉由香梨さん）

読書の扉を開く図書館に

中学生だからこそ積極的に読書をし

当麻町の状況

当麻町では、平成二十五年度から中学校に、平成二十六年年度から町内の小学校（二校・兼任）に学校司書が配置されました（いずれも非常勤）。

当麻中の様子

当麻中の学校司書は、着任2年目の小玉由香梨さんです。

当麻町に転入する前は、旭川市図書館で司書として勤務されていました。

十一月一日の「古典の日」には中学生も親しみやすい古典を紹介するコーナーを設けたり、スキー学習に合わせて滑走技術に関する本を紹介したりするなど、公立図書館での司書経験も生かしながら業務を進めています。



きめ細かい配慮がされた図書展示

読書の幅を広げる

部活動や高校受検など、なにかと忙しい中学生は、それまでよりも読書量が少なくなる傾向があります。

「きっかけは、いわゆるライトノベルでもいいから読書への第一歩を踏み出してほしい」と語る小玉さん。

図書の紹介コーナーには、中・高校生に人気の映



新聞や進路情報が整理されたラック

画「アオハライド」のノベライズ本の近くに、旭川ゆかりの作家三浦綾子さんの「氷点」が置かれていました。また、図書の購入は年に1回まとめで行っていましたが、現在は、学校司書が子どものニーズをより細かく把握し、数回に分けて購入するようになりました。

町立図書館との連携

今年度、学校司書が中心となり、蔵書のデータベース化が行われ、2月から学校図書館の貸出しは町立図書館と共通

のカードが使用されています。このことにより、これまで以上に、子どもたちが気軽に町立図書館を利用できるようになりました。

また、当麻町では、これまで小学生までだった図書贈呈事業を拡大し、町立図書館で町内の全ての中学生に本をプレゼントする予定となっており、小玉さんもプレゼントする本の選定委員を務めました。

学校司書の専門性を生かした学校以外での活用も進められています。

当麻町立当麻中学校

校長 松永 博一

生徒数 177名

学級数 9学級（特支3）

所在地 当麻町5条西4丁目

Tel 0166-(84)2072

Fax 0166-(84)2051

事例4

札幌市立中央中学校（学校司書・天谷まゆみさん）

知的好奇心を刺激する図書館へ

司書教諭やボランティアとの連携

札幌市の状況

札幌市では、モデル事業として平成二十五年度から中央中学校に学校司書（非常勤）が配置されました。

中央中の様子

中央中の学校司書は、着任1年目の天谷まゆみさんです。

天谷さんは、司書資格をもち、書店での勤務経験もあります。

図書館入り口に置かれた人目を引く看板や図書を紹介するポップなど、書店での経験が生かされています。朝の登校時には、本を借りにくる生徒もおり、年間貸出冊数は学校司書を配置する前の約1.5倍になりました。

司書教諭との連携

天谷さんから業務内容などをお聞きしていると、図書館便りの検討や最終確認、授業での学校図書館の計画的な活用など、多岐にわたって司書教諭と日常的に連携していることが伝わってきます。



ポップ作りに関する資料



入り口に置かれたカフェ風の看板

また、司書教諭は、各教員と学校司書をつなぐコーディネーターとしての役割をもっています。

中央中では、それが機能し、本を紹介するポップ作りやビブリオバトルなどが授業に取り入れられています。加えて、定期的に図書館ボランティアの方が学校図書館を訪れ、図書の修理などをしており、そうしたボランティアと学校司書との連携も図られています。

市立図書館との連携

札幌市では、子どもたちが必要なときに必要な図書をいつでも借りられるよう札幌市中央図書館と学校図書館をオンラインで結んだ配本システムを導入しています。

このシステムの端末は、学校図書館内に置かれており、その運用も学校司書の重要な業務のひとつとなっています。

子ども一人一人の知的好奇心を刺激する学校図書館づくりが着実に進められています。

札幌市立中央中学校

校長 水野 敏夫
生徒数 406名
学級数 12学級
所在地 札幌市中央区北4条東3丁目
Tel 011-(241)6266
Fax 011-(241)6359

学校の読書活動の中心として

「読書のまち」恵庭市の取組

恵庭市の状況

「恵庭市人とまちを育む読書条例」を制定し、全国的にも先進的な取組を進めている恵庭市では、平成十六年度に全ての小学校、平成十八年度に全ての中学校に、学校司書が配置されました（いずれも非常勤）。

読書活動の中心として

学校司書の勤務は午前8時から午後4時までを基本とし、学校の日課に合わせて、朝から学校図書館を開館しています。

恵庭市では、平成二十年度から全ての学校で朝読書に取り組んでおり、「子どもたちの集中力が高まり、1時間目をスムーズに始めることができるようになった」との声が多く聞かれます。



また、学校図書館が朝の開館を始めてから、図書の貸出しが大幅に増えたという学校も多いそうです。

その他にも、学校司書による読み聞かせやブックトークなども日常的に行われており、学校における読書活動の中心的な存在となっています。



司書教諭との連携が必要

学校の読書活動の多くの部分を担っている学校司書ですが、司書教諭との連携は欠かせません。

例えば、玄関スペースへの図書紹介コーナーの設置や掲示板での告知など、図書館以外の場所の活用などは、教職員全体の理解や協力が必要となります。

そんなとき、学校司書の良き相談相手として、また、学校図書館と各教室をつな

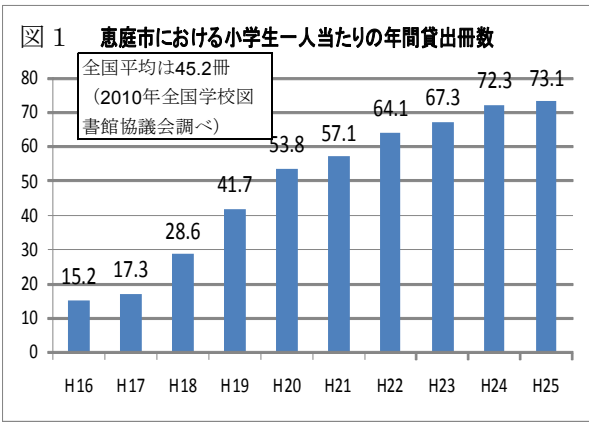
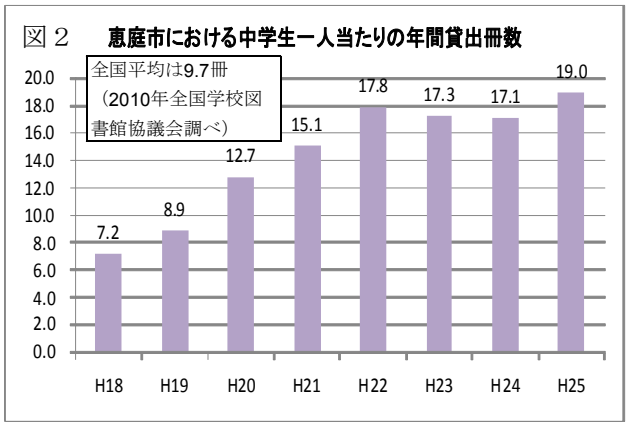
ぐコーディネーターの役割をもつのが司書教諭です。学校司書と司書教諭がそれぞれの役割を分担し、連携してはじめて、学校の読書活動を活性化することができます。

また、個々の学校司書の資質や能力はもとより、学校全体で読書活動を進めようという共通理解が図られていることも大切です。

年間貸出し冊数の増加

恵庭市では、学校司書が配置されてから年間貸出冊数が大きく増加し、平成二十五年には、年間の貸出冊数が小学校で73.1冊、中学校で19.0冊となり、いずれも全国平均を大きく上回っています。

その経過をみると、学校司書の配置直後にはそれほど大きな変化は見られませんが、3年目に大きな伸びがみられます（図1・2）。



その中で、各学校の効果的な取組など、情報を提供し共有することで、市内の各学校が一体となって読書活動の充実に向けた取組を進められるようにしています。

また、年2回、学校司書と司書教諭を対象とした合同研修会を行っており、それぞれが連携した取組を一層充実できるようにしています。

他の市町村でも学校司書の配置がまだ少ない時期でしたので、先行事例も少なく、恵庭市内の各学校が試行錯誤しながらも着実に実践を積み重ね、子どもの読書活動の充実につなげていったことが分かります。

定期的な情報共有

恵庭市では、学校司書の研修等にも力を入れており、学校司書のミーティングを月1回、定例化しています。

学校配本システムの運用

恵庭市では平成十九年度から「学校配本システム」を導入しており、学校図書館に置かれた端末で他校や市立図書館の貸出状況を確認し、巡回する配本車を通じて、貸出しを受けることができます。

このシステムの運用は、学校司書が行っており、子どもたちは他校や市立図書館の蔵書約40万冊の中から読みたい本をスムーズに借



『終わりに』

読書活動の充実に向けて学校における読書活動の中心として学校図書館の役割はますます重要になってきており、学校司書への期待も高まっています。

本事例集で紹介した、既に学校司書を配置している市町村や学校の取組も参考に、学校における読書活動の一層の充実を図ることが大切です。

恵庭市立図書館

館長 菅原 伸治

蔵書数 295,845 冊 (平成25年度)

年間利用者数 124,666 人 (平成25年度)

所在地 恵庭市恵み野西5丁目10-2

Tel 0123-(37)2181

Fax 0123-(37)2184

ることができることを期待しています。

ここでも、いつでも人(学校司書)がいる学校図書館の機能が活かされています。

4月23日は「子ども読書の日」



北海道「朝読・家読運動」イメージキャラクター

北海道教育委員会

平成27年2月

担当：北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課読書推進グループ

〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目

Tel 011-(204) 5994 (直通) Fax 011-(232) 2236

北海道子ども読書活動推進ホームページ

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssg/move/dokusyo/dokusyoindex.htm>

